

研究所だより

第423号
2020年12月22日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“もういくつねると お正月 お正月には 凧あげて
こまをまわして 遊びましょう はやくこいこい お正月”



『お正月』 1900年 唱歌 滝 廉太郎



～ 冬来たりなば、春遠からじ～

今年も残すところ、あとわずかとなってしまいました。暦の上では21日は、冬至（1年で一番風が短く、夜が長くなる）。冬の間点にあたりますが、寒さはこれからが厳しくなり、本格的な冬の到来となります。ここのところコロナ感染拡大が勢いを増してきています。これまで以上に体調管理には十分留意して、年末年始をお過ごしください。

学級を予防的に見る 特別編

（教育ジャーナル2020年度 Vol 5）から

村上仁志 教諭（大阪市立みどり小学校）

冬休み明けをスムーズに

いつもより短かった夏休み明けから冬休みを迎えるまで、「ずいぶん長かった」と思っている方が多いのではないのでしょうか。それは子どもたちも同様でしょう。

ようやく迎える冬休み。ずっと張り詰めていた緊張の糸がブツリと切れて、それを張り直す間もなく迎えた新学期。「学校に行きたくないなあ」という気持ちになる子どもも少なくないのではないのでしょうか。

例年であれば、先生方が子どもたちのこうした気持ちへの対応に力を入れるのは、夏休み明けでした。しかし、今年は事情が異なります。学校休業で1学期が短く、休みも短縮された夏休み明け以上に、

長かった2学期の疲れが残る、冬休み明けが要注意だと思われます。

夏休み明けの子どもたちの「学校に行きたくない」という気持ちを軽減させるために、先生方はいろいろと工夫をしてこられたのではないのでしょうか。今年度は、冬休み明けにも、同様な工夫をすることが効果的なのではないかと思えます。



休み明けを楽しみにするハガキ作戦

この作戦は、通常であれば夏休み明けの登校を楽しみにしてもらうために行っているものです。クラスの子もたち全員に暑中見舞いで「休み明けにみんなに会えることを楽しみにしています」というイメージを伝えます。

そのメッセージに加えて、クイズも載せておくのです。それにより、子どもたちはその答えが知りたくなり、不安だと思っていた始業式に対して、少しでも楽しみにする気持ちを持ってもらうようにする、というものです。

ちょっと難しくても簡単に解けないクイズを出題したり、子どもたち一人に一文字ずつを書いたハガキを送って、クラス全員の文字を集めると何かのメッセージになるような、自分のハガキだけでは解けないクイズを出題したりしました。

また、家庭にあるものでできる、楽しい実験の結果を問うクイズを出したこともありました。ハガキに書けば、保護者や家族が目にもなります。それが家庭での対話のきっかけにもなり、家族で考えたり、実験してみたりする機会になるかもしれません。

そうした工夫により、始業式の日を楽しみに登校してくれるようになります。

冬休みのハガキというと、思い浮かぶのは年賀状ですが、喪中の子はどうするのか、といった問題が生ずることもあります。このため、年賀ハガキではなく、普通のハガキで出すなどの配慮が必要です。

また、年末年始は郵便物の配達りが混雑しますので、冬休みに入ったらすぐにハガキを出すなど、必ず休み中に子どもたちの手元に届くよう、早めに投函するようにします。

新年度スタートと同様のダンドリを

始業式からの数日は、短い時間の中で、多くの配布物や回収物、伝達事項、決めなければならないことなど、やるべきことがたくさんあります。

せっかく前項で示した工夫などにより、始業式を楽しみにして登校してきた子どもたちも、時間に追われて慌ただしく過ごす教師の姿を目にしたら、学校へ行きたいという気持ちや学校が楽しみだという気持ちが、あっという間にしぼんでしまうかもしれません。

事前の周到な準備で、休み明けからの数日間の慌ただしさを、スムーズに乗り切るようにしたいものです。

そのために、参考にしたいのは、4月の学級開きや夏休み明けのための準備です。多くの先生方は、学級開き初日からの数日間や夏休み明けからの数日間を、学級経営上、非常に重要なものと捉え、その数日を充実したものにするために周到な準備をされているのではないかと思います。それらを参考に、冬休み明けの数日間をスムーズに過ごせるようにしていきましょう。

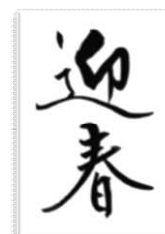
そして、ハガキクイズの答え合わせの時間を、余裕をもって楽しんだり、更に時間があれば、子どもたちの大好きなちょっとしたレクリエーションの時間を設けたりして、子どもたちが、「学校は楽しい」という気持ちを持って休み明けの数日を過ごし、新学期の学校生活にスムーズになじんでいくことができるようにしていきたいものです。



～ 2020年（令和2年）の漢字は「密」～

公益財団法人 日本漢字能力検定協会は、12月14日に今年の世相を漢字一字で表現する年末の風物詩「今年の漢字」を発表しました。このイベントは、12月12日の「漢字の日」に一年を振り返り、漢字の奥深さと意義を再認識していただくための活動の一環として、毎年年末に応募し、最も応募数の多かった漢字を「今年の漢字」とし、京都市・清水寺の森清範貫主の揮毫により「密」と発表されました。

応募者が選んだ理由として、「世界中が新型コロナウィルス感染症流行の影響を受けた1年となった。『3密』」という言葉が提唱され、生活・行動様式が『密』にならないよう国民が意識し続けた。また、政治判断が『密』室で行われたことや芸能界での『密』会報道などでも使われた年。」などが挙げられた。来たる2021年（令和3年）が安心して暮らせる年であってほしいですね。



皆様おそろいにて、良き新年をお迎えください
2021年がお互いの飛躍の年で
ありますようにお祈りいたします

